
とある世界の夕方のこと

春日井

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある世界の夕方のこと

【Nコード】

N3512M

【作者名】

春日井

【あらすじ】

喫茶店のマスターとどこにでもいる小学生の男の子のはなし

「柁人さん、こんばんは！」>br<塾力バンを持った子供がやってきた。えらく重たそうなカバンを降ろしてカウンターの席に座る。>br<「今日は何にしますか？」>br<水とおしほりを渡す。子供は食らいつく様にメニュー表を見ていた。>br<「んー。クリームパスタください」>br<決まったのかメニュー表から顔を上げ、注文する。顔にはお腹すいたと全面に書いてあった。>br<「飲み物とデザートはどうする？」>br<「えつと。・・林檎ジュースください。・と、デザートはプリンください」>br<「かしこまりました」>br<メニュー表を下げ、カウンターの奥へ戻る。振り返ると子供はテーブルにテキストを広げ、勉強していた。>br<>br<>br<>br<

コンコンとテーブルをノックされ、顔を上げるれば柁人さんがトレイを持っている。>br<「ちよつとテーブル片付けてくれるか？」>br<「わかった」>br<あわててテキストとペンケースをカバンに押し込む。空いたテーブルには美味しそうなクリームパスタと林檎ジュースが置かれた。>br<「冷めないうちにどうぞ」>br<「いただきます」>br<手を合わせてパスタを食べる。熱々で美味しい。塾帰りに『芙蓉』で食べるのが最近の楽しみの一つだ。ガツガツ食べるのはダサイと思うけどせに腹はかえられない。そんなことを思っただけで食べているとあつという間に皿の中は空になった。パスタを食べ終わると皿は下げられ、デザートプリンが出てきた。上にはサランボと生クリームが載っている。>br<「さつきのは宿題か？」>br<「なんで？柁人さん」>br<「いや。・・最近の小学生は大変だなと思ってな」>br<プリンを置くついでに柁人さんはそんなことを言ってきた。>br<「そうだよ、

塾行つて、習い事行つて、ダチと話すネタ集めてつて色々することあんの。よくさあ、言うじゃん？『子供は遊ぶのが仕事だ！』ってあれウソだと思わねえ？」> b r <「今じゃあ・・・ウソかもな」> b r <「だよなー？塾とかさ、俺まだ小4だつつの。私立に行くわけでもないのにさあ？母親の見栄だぜ、これ。PTAで他の奴らが塾行つてゐるって聞いて行かされてんの。別にテストで悪い点取ったわけじゃねーつてのに」> b r <「頑張つてんだな」> b r <「友達いなきゃ、そつこつで止めてる」> b r <「でも、ちゃんと行つて勉強してるお前はえらいよ」> b r <そう言つて頭を撫でられた。サクランボを横に置いてそつとプリンを掬う。市販のものよりもよつぽど美味しかった。> b r <> b r <

カランと音が鳴りお客さんが入つてきた。> b r <「マスター、まだあるかな？」> b r <「いらつしやい・・・いつものですか？」> b r <「あー・・・まあね」> b r <あははと笑い声が聞こえる。見てみると中年のサラリーマンだった。なんとなく押しの弱そうな人だなあと思つて見ているとメニューを受け取り、何か真剣に吟味しはじめた。時々、これは売り切れですとか桎人さんに言われている。> b r <「・・・竜也」> b r <じーつと見ていたら桎人さんに注意される。あわてて視線をそらし林檎ジュースを飲んだ。> b r <「じゃあ、その8点でよろしいですね？」> b r <「ああ、頼むよ」> b r <「椅子に座つてお待ちください」> b r <桎人さんはそう言つて何やら準備しはじめた。横に座つたサラリーマンを見上げれば、バチツと目が合う。気まずいなあと思つてしているとヘラつと向こうが笑つた。> b r <「うちの奥さん、ここのお菓子好きでね・・・今日、朝から怒らせちゃつたから買つて帰ろうと思つてね」> b r <「ふうん」> b r <ご機嫌取りかあと納得する。そうこうしているうちに出来上がつて、桎人さんから受け取りサラリーマンは帰つて行つた。> b r <「あの人、よく来るの？」> b r <

「どうした？急に」>br<「尻に敷かれてんだなあって思ってた」>br<「どつちかってーとあの人は愛妻家だろうさ。自分のところの奥さんは何が好きで何が嫌いかちゃんと覚えてんだから」>br<「そういうもん？」>br<「そういうもんじゃねーの？・・・さてと竜也もそろそろ帰んな」>br<あんまり遅くなんのもダメだろうと柁人さんは言う。時計を見ると8時半を過ぎていた。>br<あわてて会計をして店の外見出る。もうだいぶ空は暗くなっていた。>br<「ごちそうさまでした」>br<「気を付けて帰んだぞ」>br<「うん、ありがと」>br<>br<

（後書き）

前回のCaf? 『芙蓉』夏と同じ設定です。これからも本数が増えるようなら連載の方に移行することも考えようかなとは思っています。それよりも文章力を上げる方が大事ですが。

さて、最近の小学生はほんとに忙しそうです。学校から帰ると塾力バン持つてって本当に大変だなと思います。塾の前とか歩いていると夏期講習のお知らせとか張ってあったりとかして・・・

誤字脱字ありましたら遠慮なく指摘ください。ここまで読んでいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3512m/>

とある世界の夕方のこと

2011年10月7日10時02分発行